

第1章

橋の役割

橋は人間の意志力の表象
橋は人々のドラマの舞台

橋は貴重な生活空間
橋は都市の文化

渡る

人間は道によって、その生活圏を拡大し、生活を豊かにしてきた。道の延伸をはばむ障害物を越える手段として、橋が架けられるようになって、人間の行動範囲は飛躍的に拡大した。現代では橋は、今まで越えることができなかったような大きな川や海を渡ることができるまでに発達を遂げた。橋は、障害物を渡るという人間の意志力の具体的な表象であると言える。

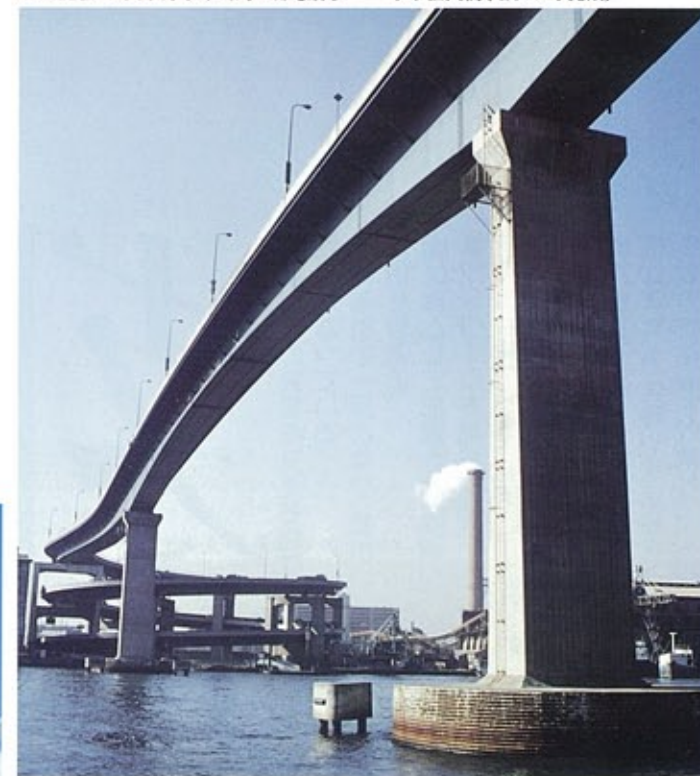
▼戦後の技術革新の成果を表わす——新十三大橋(昭和41年完成)



▼大阪南港に優美な姿をみせる——かもめ大橋(昭和50年完成)



▼大型船が行き交う木津川河口部を渡る——千本松大橋(昭和48年完成)



▲中之島を軽快に渡る——天神橋(昭和9年完成)



▲日本初の本格的な斜張橋——豊里大橋(昭和45年完成)



▲伝説と歴史を秘めて淀川を渡る——長柄橋(昭和58年完成)



▲大阪港の主航路をひとまたぎする——港大橋(昭和49年完成)

橋は都市の機能を支える重要な施設となっている。幹線道路の一部となり、都市の骨格を形作る。橋は群として配置され、交通のネットワークを構成する。近代的な都市では、交通の円滑化のために施設の立体化が必然であり、その手段として橋は大いに利用されている。橋はまた、ガス管や電話線など多数の供給管を収納し、安全に送る役割をもになっている。

支える

▼交通の大動脈、新御堂筋——新淀川大橋(昭和39・44年完成)



▼鉄道で分断された地区を結ぶ——天王寺バイパス(昭和45年完成)



▼橋は多くの供給管を安全に渡す——天神橋(昭和9年完成)



▲交通の円滑化をはかる「橋をこえる橋」——天満重ね橋(昭和45年完成)



▲ビルの上を利用した——中央大通の高架橋(昭和45年完成)



▲生活必需品を迅速に運ぶ——中之島西端の昭和橋(昭和7年完成)、端建蔵橋(昭和38年完成)、船津橋(昭和38年完成)